



8月・いざ、企業実習①

「初日から大きな声であいさつしてくれて頼もしかった」「真剣に取り組んでいて今後のさらなる成長を感じさせてくれましたよ」十九日夕。安城特別支援学校（安城市）の一室で、進路指導主事の説田智洋教諭とアイシンウェルスマイル（刈谷市）オフィスサポート担当の小栗幸治さんが、実習中の生徒たちの様子について意見を交わしていた。小栗さんは「最も重要視するのは、本人がこの仕事にやりがいを持ち、本当にこの会社に行きたいと思ってくれているかどうかです」と力を込めた。

小栗さんが生徒の本音にこだわるのには、八年前の
「初日から大きな声であいさつしてくれて頼もしかった」「真剣に取り組んでいて今後のさらなる成長を感じさせてくれましたよ」十九日夕。安城特別支援学校（安城市）の一室で、進路指導主事の説田智洋教諭とアイシンウェルスマイル（刈谷市）オフィスサポート担当の小栗幸治さんが、実習中の生徒たちの様子について意見を交わしていた。小栗さんは「最も重要視するのは、本人がこの仕事にやりがいを持ち、本当にこの会社に行きたいと思ってくれているかどうかです」と力を込めた。

生徒の本音真正面から



生徒の様子について意見を交わす小栗さんと説田教諭。安城市の安城特別支援学校で

「仕事は楽しいことばかりじゃない」。という時、家族や周囲に弱音をほき出せ

るのも大切なこと。保護者を含めて、支えてくれる存在がいるかどうかも気になるポイントだ。どんな思いで実習に取り組んでいるか、就職すればどんな働きをしてほしいか。良くも悪くも、学校や家庭では見せない、思わぬ姿を実習中にのぞかせる生徒もいる。本音を見抜こうと、小栗さんたちは目を配る。「もしこの仕事に合わない判断すれば、他の就職先を進める可能性もある」という。

実習中の生徒たちが一生懸命であればあるほど「この会社に入って良かったと言えぬ職場にしたい」との思いも強くなる。だからこそ実習中も良いところは褒め、できていないことはしっかりと指摘する。自分の気持ちを表現したり、頑張りアピールしたりするのが得意な生徒ばかりではない。目立たない所で、黙々と頑張っている生徒を見逃したくない。「頑張っていたら、見てくれる人はちゃんといる。そう分かれば、やりがいを持って仕事に取り組めるのではないか」と小栗さんは思う。真正面からぶつからないと、大切なことは見えてこない。採用は、どちらにもしっかりと真剣勝負だ。来春の同社の採用予定数は十一人。実習に参加した生徒の中から「指名求人」を経て、十月に面談と作文の正式な採用試験がある。

（四方さつき）
安城特別支援学校高等部で、企業への就職を目指す生徒たちの一年を密着取材しています。次回は、企業での実際の仕事内容などについて紹介します。